

# SDGs 経営の促進に向けたインセンティブの研究

## ～ 明星大学「SDGs ポイント」に見る

### 学生の取り組みに関する一考察 ～

Research on Incentives to Promote SDGs Management

- A Study on Student Initiatives in the “SDGs Point”

Program of MEISEI University -

安岡 寛道

Hiromichi Yasuoka

#### 要旨

昨今の日本において、“SDGs 経営”を標榜する企業はかなり増加したが、個々人の意識まで本質的に理解しているとは言い難い。明星大学（経営学部）では、「SDGs に関するポイントプログラム（SDGs ポイント）」の提供を通じ、未来を担う学生個人が SDGs の重要性を楽しみながら体験して本質的な理解を促進する共に、大学としてこれらの取り組みを社会に訴求する活動を 2021 年 9 月に開始した。

「SDGs ポイント」は、これまでにあったエコポイントやマイナポイントなどのように、本来の目的を達成するための学生向けのインセンティブとして導入したものである。既に半年程度が経過したため、この内容および類似例を示し、特徴や違いを明確にしておく。また、この「SDGs ポイント」の成果（途中結果）や評価基準を示し、全体や上位の学生の行動や意識、メディアの情報など、いくつかの視点で分析し、考察する。

この活動は未だ緒に就いたばかりであり、現在も試行錯誤を繰り返しているが、企業や大学の“SDGs 経営”の本質は個人の行動や意識という点を強調したい。また、最終的には日本社会やさらに地球環境に貢献するように始めたものであり、さらにこの活動を起点として派生する取り組みを期待したい。

[キーワード] SDGs、ESG、ポイントプログラム、ICT、明星大学

#### 1. はじめに（背景と目的）

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) (図表 1) は、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択され、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。この SDGs は、17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓い、発展途上国のみならず、先進国が

取り組む普遍的なものである。日本においても、政府や企業を始めとして、積極的に取り組もうとしている[1][2]。そのため、日本の未来を背負う大学生においても、本質的な内容に関する認識レベルを上げ、貢献していくことが迫られているが、その内容を本質的に理解している学生は極めて少ないのが現状である。大学教育においても、由々しき問題である。また、昨今は“SDGs 経営”を標榜する企業もかなり増加したが、その構成員である社会人も本質的に理解しているとは言い難い。企業自体も、オフィスビルのカーボンニュートラル化（二酸化炭素の放出と吸収が相殺されている状態）にし、従業員のエコ推進などを掲げている場合が多いが、個々人の取り組み、その意識まで踏み込まなければ、オフィスの老朽化、エコ活動のマンネリ化によって、持続していくことはできない。

図表1：SDGsの17のゴール（目標）



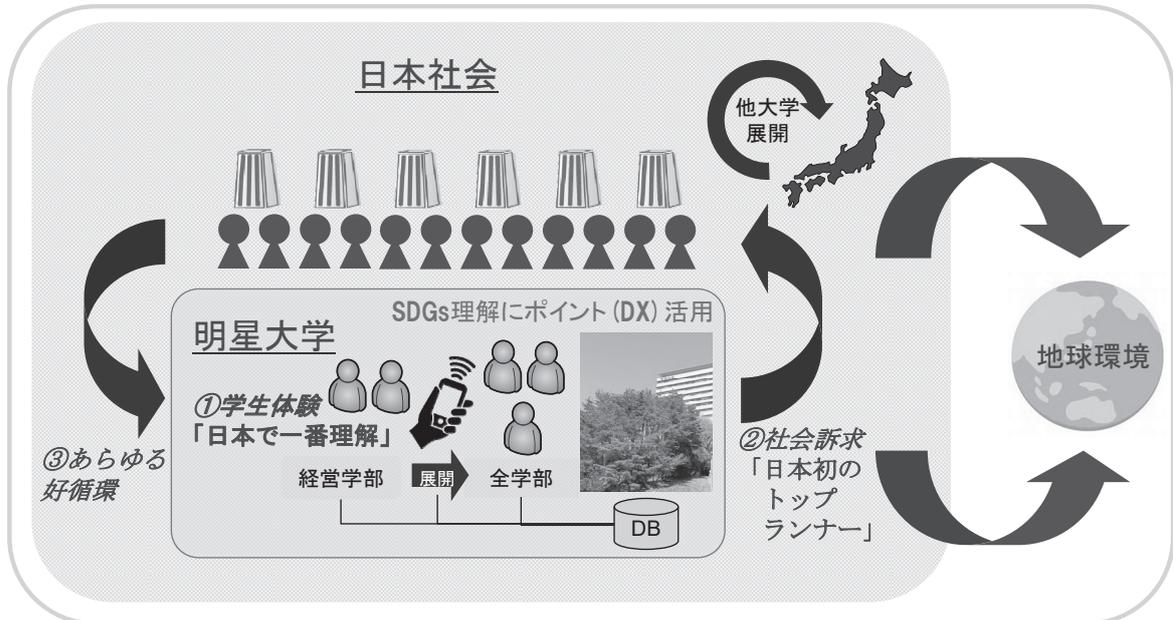
出所) “SDGs ジャーナル” から引用

上記の背景に基づき、明星大学（東京都日野市）経営学部では、SDGsの重要性、内容の本質的な理解および実践を行うため、「SDGsに関するポイントプログラム（以降、SDGsポイント）」を2021年9月から開始した[3]。「SDGsポイント」は、まず経営学部において、希望する学生はICT（スマホなど）を活用して参加できるようにした。学生はポイント収集を楽しみながら、SDGsの自発的な学習を行い、“SDGs分野を日本で一番理解した学生”になってもらいたい狙いがある。

また、「SDGsポイント」は、これらの構想や経過を社会に情報発信し、出来るだけ訴求することにより、明星大学が“SDGs分野で日本のトップランナーの大学である”という認知を広め、日本社会から地球環境への貢献を目指している。さらに、これらの状況から、大学としてもあらゆる方向に好循環をもたらすことも目指している。（図表2）

90 なお、この「SDGsポイント」は、2021年度「明星大学教育新構想」事業の一つとして、授業そのものの活動ではなく、課外活動として著者を中心に立ち上げたものである。

図表 2: 「SDGs に関するポイントプログラムを通じた学生体験と社会訴求」の全体像



出所) 著者作成

## 2. 「SDGs ポイント」の内容と比較

「SDGs ポイント」は、2021年9月から、明星大学経営学部の100名程度の参加学生から開始された。この参加学生は、“SDGs 経営”やICTを取り扱った当学部のいくつかの授業で希望者を募り、「参加する」と答えた学生である。

### 2.1 「SDGs ポイント」の内容

「SDGs ポイント」の参加方法、ポイント付与方法は、以下の通りである。

参加学生が実践した“SDGs の取り組み”をスマホなどから明星LMS（オンライン授業で使う学習管理システムのサイト）に行き、その「SDGs ポイント」のコース上から、1週間（7日）単位で1日ずつ、その内容と写真をレポート機能から投稿・提出してもらう（図表3）。1週間単位で複数のメンバーにより判断し、認定された場合にポイントを付与する。複数のメンバーとは、「明星大学（経営学部）SDGs ポイント事務局」（以降、SDGs ポイント事務局）の教職員（著者など）およびの学生である。

つまり、学生は、1週間で最大7ポイントが付与される。なお、LMSの仕組みにより、相応の開発費用がかかるポイントプログラムのシステムを用いずに「SDGs ポイント」を実装できた。また、学生のポイント付与につながる“取り組み”は後述する。

これらの“取り組み”と“認定”を定期的（1週間および1ヶ月単位）に繰り返し行うことにより、以下などの効果が期待できる。

- ・学生が実践できるSDGsの取り組みの把握
- ・教員と学生が判断・学習することにより、両者のSDGsの本質的な理解
- ・ポイント付与のインセンティブによる学生のSDGsの取り組みの促進

図表3：「SDGs ポイント」の提出方法

**提出方法①**

まず… LMSから「SDGsポイント」の「レポート」を開きます

レポート一覧  
 <内容投稿>10/25(月)~10/31(日)のSDGsの取り組み  
 受付中 未提出  
 受付期間：2021-10-25 09:00 ~ 2021-11-01 09:00

<写真投稿>10/25(月)~10/31(日)のSDGsの取り組み  
 受付中 未提出  
 受付期間：2021-10-25 09:00 ~ 2021-11-01 09:00

**提出方法② (レポート)**

次に… [1-1]活動内容に合致する目標の選択 [1-2]取り組み内容の書き込み (100字程度) を行い、提出します

(1) 10月25日 (月)  
SDGsの目標 [1-1]

SDGsの取り組み内容 [1-2]

〇文字

(2) 10月26日 (火)  
SDGsの目標

10人や国の不平等をなくす  
11住み続けられるまちづくりを  
12つくる責任つかう

**提出方法③ (写真)**

最後に… 取り組みの日数分の写真を提出します

前の<内容投稿>と共に送付して下さい。

受付開始日時 2021-10-25 09:00:00  
 受付終了日時 2021-11-01 09:00:00

ポートフォリオ / 閲覧設定  
 ポートフォリオに追加しない / 取得のみ行なう - コメント不可

学生による再提出の許可 再提出を許可する  
 状態 受付中  
 まだ提出していません

提出する

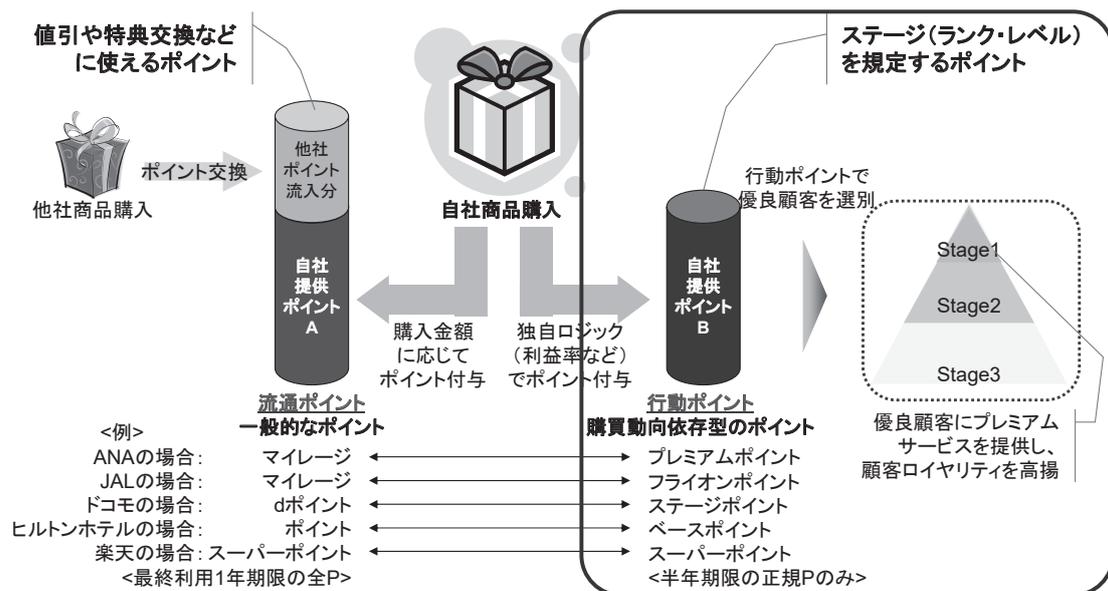
ファイル未選択

フォトライブラリ  
 写真またはビデオを選択  
 ブラウズ

出所)「SDGs ポイント事務局」今井詩央里 (安岡ゼミ所属) 作成

なお、「SDGs ポイント」は、TポイントやPonta、楽天ポイント、dポイントなどのように商品の交換や値引きに使える「流通ポイント」ではなく、JAL (日本航空) のフライオンポイントやANA (全日本空輸) のプレミアムポイントのように成果を評価する「行動ポイント」(図表4)である[4]。この「行動ポイント」は、学生にとっての大きなインセンティブであるが、安易な金銭交換だけの目的で醸成されるものではなく、自己実現を後押しするものである。

図表4：企業が提供する「流通ポイント」と「行動ポイント」の違い



さらに、「SDGs ポイント」を蓄積することにより、一定期間（1 ヶ月間など）の上位者を発表し、学業とは“異なる視点の貢献”者を表彰する。これにより、以下などの効果が期待できる。

- ＜学生＞
  - ・学生の“SDGs の取り組み”のきっかけによる実践
  - ・学生の“SDGs の取り組み”への競争（ゲーム）による継続
  - ・学生の“SDGs の取り組み”の実践・継続による SDGs の本質的な理解
- ＜大学＞
  - ・大学の“異なる視点の貢献”の発掘
  - ・大学が日本社会や地球環境に貢献するための定量的な情報収集・発信
  - ・大学の SDGs 分野の功績による、志望/入学/卒業学生への誇りの醸成

## 2.2 社会貢献系のポイントプログラム

“異なる視点の貢献”にポイントプログラムを活用する例は、以前から一部の企業で既に行われている。

例えば、環境貢献への評価として、エレベーターを使わずに階段で上り下りする社員に対して、人事評価と“異なる視点での貢献”でエコ奨励評価のポイントを付与している。これは事務機器メーカーにおいて、社員向けのサンクスポイントとして提供されている。また、継続貢献への評価として、派遣社員に対して、継続的に派遣される方に、派遣会社から（給与以外の）共通ポイント（Tポイントなど）を付与している。

また、寄付を前面に出すポイントプログラムも近年、数多く提供されるようになった。

例えば、ポイント交換先として NPO などへ寄付を行う、共通ポイント（Tポイントなど）がある。また ESG（環境・社会・ガバナンス）や SDGs を推進する企業に投資家が集まるため、証券会社のポイントプログラムでも、ポイント交換先として NPO などへの寄付を指定できる場合がある。さらには、地域社会への貢献のため、各地域ポイントや地域展開するサイモンズポイントは、ポイント交換先として地域の NPO などへの寄付を指定できる場合がある。特にサイモンズは、余ったポイントの期限が到来すると、自動的に寄付先へ交換される。

政府もあらゆる活動にポイントプログラムを活用している。政府が大々的に行ったエコポイントによるグリーン家電普及促進事業（経済産業省主催）、グリーン住宅ポイント制度（国土交通省主催）、キャッシュレスポイント還元事業（経済産業省主催）やマイナンバーカード推進のマイナポイント事業（総務省主催）などがある。これらは、活動促進や普及策の一つとして、日本人のポイント好きを上手く利用したと言えるであろう。

## 2.3 「SDGs ポイント」の類似事例

「SDGs ポイント」の類似な事例（図表 5）も存在する。「SDGs ポイント」の開始前から 2022 年 1 月末まで、「SDGs ポイント」の類似な事例は、主に 5 つ存在した。これらの事例のポイントの種別は、図表 4 で示した「流通ポイント」であり、「SDGs ポイント」はそれとは異なる「行動ポイント」である。また、類似事例のポイントの付与基準は、ある決まった行為にポイントを付与するものであり、固定的である。それに対して、「SDGs ポイント」は“SDGs の取り組み”を学生が独創的に考えて投稿し、各々を評価しながらポイントを付与するものであり、流動的である。これらの主に 2 点が「SDGs ポイント」と類似事例の違いとなる。

図表5：「SDGs ポイント」の類似事例（2021年9月開始時点）

名称	対象エリア (URL)	概要	開始
SDGs つながりポイント	<p>神奈川県小田原市、厚木市、鎌倉市、(横浜市)日吉</p> <p><a href="https://coin.machino.co/kanagawa-sdgs-point">https://coin.machino.co/kanagawa-sdgs-point</a></p> <p>(「まちコイン：神奈川、東京、岡山、福岡、長野の自治体と民間事業者)</p>	<p>SDGsの達成に向けて地域の社会的課題の解決を図る活動にポイントを利用し「地域活性化」と「SDGsの自分ごと化」を目指す。</p> <p>「まちのコイン」(地域コミュニティ通貨)のアプリを使ってポイントのやりとりを行う。手伝い等をするら貰えるコインであり、そのうちの一部分が「SDGsつながりポイント」となる。</p>	<p>2019年11月</p> <p>「まちコイン」として開始</p>
とよた SDGs ポイント	<p>愛知県豊田市中心</p> <p><a href="https://toyota-efami.com/">https://toyota-efami.com/</a></p>	<p>「飲食店で食事を残さず食べる」「環境にやさしい商品の購入」「就労支援のセミナーを受講する」など、SDGsにつながる行動をすると、地元加盟店や豊田市などから「とよた SDGs ポイント」が発行。発行されたポイントは、対象店舗で1ポイント=1円として地元加盟店で利用できる。</p>	<p>2020年2月に</p> <p>「とよたエコポイント」をリニューアル</p>
地域課題解決型デジタル地域通貨サービス「Region Ring」	<p>大丸有エリア</p> <p>(大手町、丸の内、有楽町)</p> <p><a href="https://data.swcms.net/file/mri/ja/news/auto_20210428402415/pdfFile.pdf">https://data.swcms.net/file/mri/ja/news/auto_20210428402415/pdfFile.pdf</a></p>	<p>三菱総合研究所が、地域通貨としてポイントアプリを用い、地域課題解決の一環としてSDGsアクションの促進を行う。</p> <p>&lt;参考&gt;東京ユアコイン(オフィス型)(既に終了)</p> <p><a href="https://cosmetics-medical.com/kako/yourcoin/">https://cosmetics-medical.com/kako/yourcoin/</a></p>	<p>2021年3月「Region Ring」</p> <p>→ポイント</p> <p>2021年5月10日実証開始</p>
SDGs 地域ポイント(制度)	<p>兵庫県尼崎市</p> <p><a href="https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/021/338/po-int.pdf">https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/021/338/po-int.pdf</a></p>	<p>環境保全や省エネ促進、健康づくりの活動など、SDGs達成に資する行動をした市民に対して、1P=1円で使える「地域ポイント」を付与し、貯めたポイントは協力店舗での買い物や食事、公共施設の利用や市内産品との交換、寄付等に利用できるなど、まちのことを思い、行う活動を評価・応援する。</p>	<p>2021年4月</p>
MIEU ポイント(三重大学)	<p>三重大学</p> <p><a href="https://sdgs.media/blog/4970/#MIEU">https://sdgs.media/blog/4970/#MIEU</a></p> <p>(公財)日本環境協会主催「エコマークアワード2019」で大学初の『優秀賞』</p>	<p>三重大学のためにがんばる、あなたへのポイントとして「MIEUポイント」というポイント制度を取り入れている。そのうちの一つでSDGsの取り組みもポイント付与基準に入れている。</p>	<p>2019年</p> <p>但し、SDGsの要素を取込んだのは最近</p>

出所) 著者作成

その他、「SDGs Point Project」(<https://activelearning.or.jp/ourservice/sdgs/> 2022年1月31日) というものがある。これは、SDGs 認定カリキュラムによる人財育成の取組みがポイントで換算され、ポイント量に応じて、SDGs 達成に向けた活動への寄付が行われる社会貢献の仕組みである。

また、南砺市と富山県立大学の学生が協力した「ボードゲーム製作 (『SDGs』への理解)」(<https://www.fnn.jp/articles/-/193653> 2022年1月31日) というものがある。これは、人材とお金を獲得しつつ“SDGs のポイント”を集めるボードゲームの仕組みである。

これらもまた SDGs への理解を促進するものであるが、“ポイント”という名称が付くものの、一般的なポイント付与を継続的に行うものとは異なり、テンポラリーに SDGs への貢献を行うものである。

### 3. 「SDGs ポイント」の成果 (途中結果)

「SDGs ポイント」は、目的の通り、社会に訴求するため、情報発信に資する SDGs の定性的な取り組みや、その定量的な情報を適宜アピールする必要がある。昨今の企業広告においても、SDGs を標榜するものが多く、企業として“SDGs 経営”を推進していることをアピールしている。大学においても同様に、社会的な訴求は、メディアなどで取り上げられると浸透していくため、継続的にアピールしていく必要がある。

#### 3.1 「SDGs ポイント」の参加学生数

開始当初の2021年9月において、参加学生は、“SDGs 経営”や ICT を取り扱った経営学部のいくつかの授業(「企業論」「現代の経営戦略と組織」「経営学概論」など)で希望者を募り、「参加する」と答えた学生で“107名”であった。なお、当面は明星大学の単独活動のため、明星 LMS 上のコンテンツにおいて、個人情報の取り扱いやプライバシーポリシーなどは大学の規定に従っている。また、参加学生間のノウハウの共有や大学からの情報発信のため、代表的な投稿内容を情報共有している。退会方法は、学生のみのため、退学・卒業時のみとなるため、2022年1月末までには未だ発生していない。

その後、草の根活動で参加学生を順次増やし、さらにキャリア開発関連の授業において、SDGs の理解促進を含めて対象者を募ったことで、2022年1月17日には“149名”(「SDGs ポイント事務局」兼務の学生2名含む)まで増加した。

さらに、2022年1月中旬から、希望する学生は、経営学部以外の全学部で「SDGs ポイント」に参加できるようになった。全学部の掲示板に、SDGs の17の目標の経営学部での投稿例を記載したポスター(図表6に連絡先付加)を掲載し、希望者は「SDGs ポイント事務局」代表の著者に連絡をもらい、これまで同様に情報システム側に登録を依頼し、参加することになる。これらの取り組みによって、さらに参加学生が増加することが想定される。

図表6: 「SDGs ポイント」の17の目標の投稿例 (全学部展開向けポスターより抜粋)

<p><b>1 貧困を無くそう</b></p> <p>経営学部での実践例</p>	<p><b>2 飢餓をゼロに</b></p> <p>冷蔵庫に残っている食品や日用品を使い切るようにしている。家のルールとして、キャベツの芯やブロッコリーの茎は捨てずに食べる、すぐ食べないお肉は冷凍する、洗剤は種類を増やさないなど、家族のライフスタイルに合った工夫をしている。</p>	<p><b>3 すべての人に健康と福祉を</b></p> <p>私は最近ハンディーキャップを持っている方のYouTubeを見ることが多い。自分には知らないことの方が多く、考えさせられることがとても多い。身近なツールを使って福祉についてもっと知りたいと感じた。</p>	<p><b>4 質の高い教育をみんなに</b></p> <p>全く本を読むのが好きではなかったが、「自己肯定感が上がる本」を読み、本を読むのが好きになった。次は「嫌われる勇氣」と言う本を読んでいこうと思っている。この本を読むことにより、人間の生き方や逃げ道という発想がなくなり、価値観が変わるのではないかと考え読むことにした。</p>
<p><b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b></p> <p>ゼミの活動で、私のグループは「LGBT研修」についての新規事業のビジネスプランニングのプレゼンを企業の方へ行行った。</p>	<p>SDGsに関するポイントプログラムを通じた学生体験と社会訴求</p> <p><b>SDGsを理解、実践 ポイントGet!!</b></p> <p>創意工夫したSDGsの“取り組み”を以下の明星LMSから投稿してください。</p>		<p><b>6 安全な水とトイレを世界中に</b></p> <p>水道代が年々上がり、何が原因だと突き止めた結果、お風呂場のシャワーが問題だと気づき、節水効果があり、なおかつ髪質にいいシャワーヘッドを買った。結果、一ヶ月後水道代が8000円から6500円になった。気持ちもお金も余裕になった。</p>
<p><b>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b></p> <p>テレビ局のサイトを参考に、節水を心掛けた。シャワーをこまめに止めることや、うがい中は水を出しっぱなしにしないことなどをした。また、洗い物での水の消費を抑えるために食器は最低限にした。</p>	 <p>参加方法 説明動画</p>	<p><b>8 働きがいも経済成長も</b></p> <p>就職先を決めるために就活用アプリのリクナビやマイナビ、キャリアスタを使い、企業分析や適正、業種別で比較し自身に合う就職先を調べ気になる企業にインターンの募集をした。インターンも会社説明会も何社か受け就活への軸が決まりつつある。</p>	<p><b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b></p> <p>ペーパーレス化のため、紙を使わずにiPadでメモをした。</p>
<p><b>10 人や国の不平等をなくそう</b></p> <p>イタリアンは高級なイメージがある。しかし、あるチェーン店は安くて美味しいイタリアン料理を提供している。「なぜこんなに安いのだろう」そんな疑問が浮かんで調べてみると、当チェーン店が安いわけは「世界の誰もが安くて美味しいイタリアン料理を食べられるように」とのSDGsへの取り組み背景があったからだだった。日常の疑問からまさかのSDGsへの理解に繋がった。</p>	<p><b>11 住み続けられるまちづくりを</b></p> <p>運動不足がてら友人とウォーキングに出掛ける事になった。ついでに歩きながらゴミ拾いをした。1時間しか歩いていないのにゴミ袋がパンパンになった。ゴミの種類で多いのが、やはりタバコの吸い殻。吸うのは自由だけでもちゃんとゴミ箱へ捨てて欲しい。</p>	<p><b>12 つくる責任つかう責任</b></p> <p>エコの洗剤を使った。普通の洗剤だとただ消費するだけであるけれど、エコの洗剤を使うことにより、毎日消費していくものをエコで使うことができた。洗剤に関しては、詰め替えを買うことでもSDGsに繋げることができる。</p>	<p><b>13 気候変動に具体的な対策を</b></p> <p>節電・節水から実践していこうと考えた。電気や水は、作られる時から使うまでの間に、たくさんのエネルギーが消費されるので、その際多くの温室効果ガスが排出され、地球温暖化の原因となってしまうので、無駄な電気を使わない、シャワーの水ではなく、お風呂のお湯を使い無駄遣いを減らしている。</p>
<p><b>14 海の豊かさを守ろう</b></p> <p>ゴミを生まないために、ペットボトルではなく水筒(マイボトル)を持ってお出掛けた。空のペットボトルが海岸に打ち上げられるという、“海洋プラスチック問題”というのが注目されており、皆が水筒を持つようになれば、そういった問題の解決につながっていくと思った。また、打ち上げられたペットボトルを拾う取り組みをしていくことが必要であると思った。</p>	<p><b>15 陸の豊かさを守ろう</b></p> <p>庭にある木の根元に、寒さ対策と肥料の代わりに枯葉を集めた。柑橘系の木なので実がなっていない時期には、米ぬかを木の根元近くに埋めると実が甘くなる。</p>	<p><b>16 平和と公正をすべての人に</b></p> <p>先日の国政選挙への投票に参加した。</p>	<p><b>17 パートナーシップで目標を達成しよう</b></p> <p>「SDGsポイント」(「明星LMS」のSDGsの取り組みを投稿する「コース」)に参加した。</p>

出所) 著者等作成

### 3.2 「SDGs ポイント」の投稿の状況

開始当初から 2021 年末までを振り返る。

毎週の投稿者数は、一桁の場合が多い。これは、授業のレポート課題とは異なり、あくまでも任意の課外活動であり、SDGs の目的意識を持つ学生に限られているためである。これを投稿・提出必須とし、危機意識を持たせると、投稿数は格段に増える。キャリア開発関連の授業において、“SDGs の取り組み”の提出を必須とした場合、約 95%（履修者 138 名中 131 名）の提出となったことから、この点が実証されている。

但し、1 週間全て（7 日分）の投稿を行う学生も当初は存在し、一部の学生ではその後も週 1 日程度の投稿は続け、日常の取り組みとして習慣化されている。

なお、代表的な投稿を、明星 LMS のコースニュースにおいて、学生向けに共有しているため、新たな創意工夫も見受けられる。さらに、上位者を 1 ヶ月度単位に 1~3 位、代表的な投稿を 2 つ程度を表彰しているため、継続している学生は、毎週異なる投稿を行っている。

また、SDGs の 17 の目標のうち、この期間で 16 の目標で投稿があった（図表 6、図表 7）。目標 1 の「貧困をなくそう」に関しては、現代の大学生では、コロナ禍とはいえ、見受けられなかったが、2022 年 1 月 31 日にフェアトレード認証関連で初めて投稿された。目標 17 の「パートナーシップで目標を達成しよう」は、この「SDGs ポイント」に参加すること自体で達成されるが、図表 7 には、別の投稿例を示しておく。

なお、投稿する場合は、明星 LMS にログインして、「SDGs ポイント」のコースに移り、内容と写真を別々のレポート欄に投稿する必要があるため、“SDGs の取り組み”を行った瞬間に投稿することはできない。従って、その手間の時間分は精査して投稿するであろうが、簡単に投稿することが難しいという課題は生じている。

### 3.3 「SDGs ポイント」の投稿数

開始当初から、2021 年末までの 2021 年の 9 月度~12 月度（1 月 2 日まで）を振り返る。

毎週の投稿内容は、学生の申告ベースで、SDGs の目標 1~17 において、図表 8 のようになった。目標 1 の投稿はこの期間ではないために省略する。

月別の投稿数を振り返る。開始月の 9 月度（9 月 1 日~10 月 3 日）は、当初は少なかったが、徐々に投稿数が増え、84 件であった。次に、10 月度（10 月 4 日~10 月 31 日）は、この 4 ヶ月では最も多く、98 件であった。また、11 月度（11 月 1 日~12 月 5 日）は、3 か月目の慣れから投稿数が減り、55 件であった。最後に、12 月度（12 月 6 日~1 月 2 日）は、年末年始を挟んだことも有り、かつ週 1 日程度の投稿が目立ち、18 件に留まった。合計として、4 ヶ月間で 255 件の投稿があったことになる。

曜日別の投稿数を振り返ると、前半に多い傾向があるが、9 月第 2 週（9 月 6 日開始）から、月曜日~日曜日の 1 週間単位で投稿・提出する方法を取っているため、開始曜日と終了曜日の取り方によって変わる可能性がある。

最後に、SDGs の目標別に振り返る。まず多かった目標が「12. つくる責任つかう責任」であり、47 件あった。次いで、「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」が 34 件あり、「3. すべての人に健康と福祉を」が 28 件と続く。学生という立場からも、モノの対するエコ消費、節電・節水、障がい者への対応などの関心がうかがえる。

図表7:「SDGs ポイント」の17の目標の代表的な投稿例

2. 飢餓をゼロに	冷蔵庫に残っている食品や日用品を使い切るようにしている。家のルールとして、キャベツの芯やブロッコリーの茎は捨てずに食べる、すぐ食べないお肉は冷凍する、洗剤は種類を増やさないなど、家族のライフスタイルに合った工夫をしている。
3. すべての人に健康と福祉を	私は最近ハンディーキャップを持っている方の YouTube を見ることが多い。自分には知らないことの方が多く、考えさせられることがとても多い。身近なツールを使って福祉についてもっと知りたいと感じた。
4. 質の高い教育をみんなに	全く本を読むのが好きではなかったが、「自己肯定感が上がる本」を読み、本を読むのが好きになった。次は「嫌われる勇氣」と言う本を読んでいこうと思っている。この本を読むことにより、人間の生き方や逃げ道という発想がなくなり、価値観が変わるのではないかと考え読むことにした。
5. ジェンダー平等を実現しよう	ゼミの活動で、私のグループは「LGBT 研修」についての新規事業のビジネスプランニングのプレゼンを企業の方々へ行った。
6. 安全な水とトイレを世界中に	テレビ局のサイトを参考に、節水を心掛けた。シャワーをこまめに止めることや、うがい中は水を出しっぱなしにしないことなどをした。また、洗い物での水の消費を抑えるために食器は最低限にした。
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	水道代が年々上がり、何が原因だと突き止めた結果、お風呂場のシャワーが問題だと気づき、節水効果があり、なおかつ髪質にいいシャワーヘッドを買った。結果、一ヶ月後水道代が8000円から6500円になった。気持ちもお金も余裕になった。
8. 働きがいも経済成長も	就職先を決めるために就活用アプリのリクナビやマイナビ、キャリアスタを使い、企業分析や適正、業種別で比較し自身に合う就職先を調べ気になる企業にインタンの募集をした。インタンも会社説明会も何社か受け就活への軸が決まりつつある。
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	ペーパーレス化のため、紙を使わずに iPad でメモをした。
10. 人や国の不平等をなくそう	イタリアンは高級なイメージがある。しかし、あるチェーン店は安くて美味しいイタリアン料理を提供している。「なぜこんなに安いのだろう」そんな疑問が浮かんで調べてみると、当チェーン店が安いわけは「世界の誰もが安くて美味しいイタリアン料理を食べられるように」との SDGs への取り組み背景があったからだった。日常の疑問からまさかの SDGs への理解に繋がった。
11. 住み続けられるまちづくりを	運動不足がてら友人とウォーキングに出掛ける事になった。ついでに歩きながらゴミ拾いをした。1時間しか歩いていないのにゴミ袋がパンパンになった。ゴミの種類で多いのが、やはりタバコの吸い殻。吸うのは自由だけでもちゃんとゴミ箱へ捨てて欲しい。
12. つくる責任つかう責任	エコの洗剤を使った。普通の洗剤だとただ消耗するだけであるけれど、エコの洗剤を使うことにより、毎日消耗していくものをエコで使うことができた。洗剤に関しては、詰め替えを買うことでも SDGs に繋げることができる。
13. 気候変動に具体的な対策を	節電・節水から実践していこうと考えた。電気や水は、作られる時から使うまでの間に、たくさんのエネルギーが消費されるので、その際多くの温室効果ガスが排出され、地球温暖化の原因となってしまうので、無駄な電気を使わない、シャワーの水ではなく、お風呂のお湯を使い無駄遣いを減らしている。
14. 海の豊かさを守ろう	ゴミを生まないために、ペットボトルではなく水筒(マイボトル)を持って出掛けた。 空のペットボトルが海岸に打ち上げられるという、「海洋プラスチック問題」というのが注目されており、皆が水筒を持つようになれば、そういった問題の解決につながっていくと思った。また、打ち上げられたペットボトルを拾う取り組みをしていくことが必要であると思った。
15. 陸の豊かさを守ろう	庭にある木の根元に、寒さ対策と肥料の代わりに枯葉を集めた。柑橘系の木なので実がなっていない時期には、米ぬかを木の根元近くに埋めると実が甘くなる。
16. 平和と公正をすべての人に	先日の国政選挙への投票に参加した。
17. パートナリシップで目標を達成しよう	幼馴染の誕生日だったので、シュークリームを買って渡しに行った。シューの中にクリームが入ってシュークリームなのに、クリームが丸出しのやつだった。「映えるシュークリーム」が良いと思って購入したが、どうやって食べたら良いのか、正解が分からなかったが、誕生日をお祝いで友好関係を大切にしたい。

図表 8 : 「SDGs ポイント」の月(9 月度～12 月度)別・目標(17)別の投稿数

月/曜日 SDGs目標	9月度 (9/1-10/3)							10月度 (10/4-10/31)							11月度 (11/1-12/5)							12月度 (12/6-1/2)							小計
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
1																											0		
2	1			1	1	1	2	1		3		1	2		2				1								16		
3		1	1	3	1		1	2	2	2	1		3		2	1	2	1	1		1		1	1	1	1	28		
4			1		1	3	1		1	1	1	2	1	1	3				1	1							17		
5										1				2													3		
6				1	1			1		1	1				2		1										8		
7	4		1	1	3	1	2	1	1		1	3	2	2	3		2	2		1	2		1	1			34		
8					2			1	2			1				1		1									8		
9		1	1																								2		
10						1								1													2		
11	4	2	1	1	1	1		3	2	2				1	1	2	1	1	1								24		
12	3	4	3	1	1	2	2	3		3	2	1	1	3	2	2	1	3	5		1	2				1	47		
13	3		2		1				1	2	1	2	2	1		3	2					1				1	22		
14	1	3						2		2	4	2	1	1		2	1		1	1		1			1		22		
15	1	2		1				1		2	1		1						1								10		
16		1					1					1		1												1	5		
17			1			1		1	1		1										1	1					7		
小計	17	14	13	11	10	10	9	14	14	16	14	13	12	15	11	9	8	7	5	6	9	3	3	4	2	2	1	3	255
合計	84							98							55							18	255						

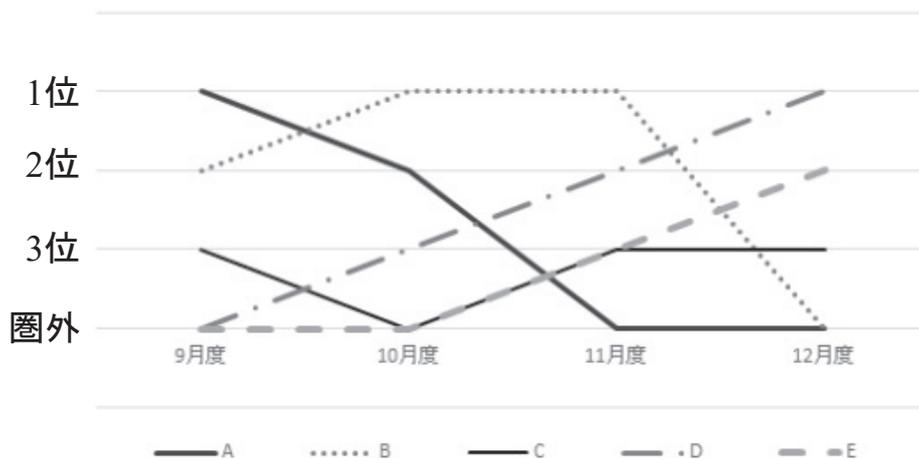
出所) 著者作成

3.4 「SDGs ポイント」の投稿者（上位者）

開始当初から、2021 年末までの 2021 年の 9 月度～12 月度（1 月 2 日まで）を振り返る。

月別の投稿者の上位者層（図表 9）は、“SDGs の取り組み”が習慣化された学生と考えられるため、上位を何ヶ月も連続で推移している。前述の通り、上位者を 1 ヶ月度単位で表彰するため、その影響もあるだろうが、“SDGs の取り組み”を習慣化させることが、大きな継続的な目標への到達の近道であろう。

図表 9 : 「SDGs ポイント」の投稿上位者の月(9 月度～12 月度)別推移



出所) 著者作成

### 3.5 「SDGs ポイント」のメディア掲載

開始直前の2021年8月27日の明星大学ホームページでのプレス発表後、メディアへの掲載（図表10）が複数見受けられた。こういった情報発信を拡散する動きは、現代のインターネット社会では当たり前となっている。拡散数が多いために表現には細心の注意を行う必要があるが、社会で注目されている取り組みに参加できるという、参加学生のモチベーションにもつながるため、今後も結果（定量および定性）を発信していく必要があるだろう。

図表10：「SDGs ポイント」のメディア掲載例

種類	名称（日付：2021年）
ネット掲載（サイト）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学プレスセンター（8月27日）</li> <li>・大学タイムズ（8月27日）</li> <li>・CNET Japan（8月27日）</li> <li>・沖縄タイムズ（8月27日）</li> <li>・excite ニュース（8月27日）</li> <li>・ペイメントナビ（8月29日）</li> <li>・ニッポンふるさとプレス（8月29日）</li> <li>・毎日新聞・大学倶楽部（8月30日）</li> <li>・ポイ探（8月30日）</li> <li>・その他、SNSでの投稿 など</li> </ul>
リアル掲載（紙面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学術新聞（9月1日） など</li> </ul>

出所）各種メディアから著者作成

### 3.6 「SDGs ポイント」の評価

「SDGs ポイント」の取り組みの評価は、他者が今後行っていくべきであるが、現時点の評価の方法について整理しておく。

まず、“SDGs の取り組み”として、学生体験については、参加（登録）学生数、投稿学生数、投稿数（＝総ポイント認定・付与数）の数値で評価することになるであろう。定量的な数値に関しては、前述の通りである。また、参加学生の満足度に関しては、今後何がしかの調査が必要になるだろうが、参加登録したが投稿していない学生と投稿した学生で分けて分析する必要がある。

次に、“SDGs の取り組み”の社会への訴求については、情報発信数、メディア掲載数、SNSでの拡散度合、研究引用数、各種表彰などで評価することになるであろう。2021年末までの情報発信は、2021年8月27日の大学プレスから個別にSNS投稿が存在する程度である。一方で、学会賞やコンテストでも取り上げてもらっており、これらは既に評価に値すると考えられる。

また、コンテストの評価基準に挙げられる、以下のような指標（定量/定性）と成果の内容（現時点）についても、“SDGs の取り組み”としても一つの大きな結果と言える（図表11）。

100 なお、成果の内容については、現状のみならず、将来性も含めている。

図表 11：「SDGs ポイント」の評価基準例

基準	成果の内容
脱炭素化	未来を担う学生は、ポイント収集を地道に楽しみながら SDGs の取り組みを実践し、SDGs を本質的に理解しやすい。結果的に、学生の SDGs の地道な実践から、脱炭素化に少なからず寄与する。なお、これらの学生が将来の企業の中核になった際、脱炭素化は当たり前のものとなっていくはずである。
持続性	「SDGs ポイント」は、商品の交換や値引きに使える「流通ポイント」ではなく、成果評価型の「行動ポイント」であり、学生の自己実現を後押しする。学生は、LMS 上で自身が挑戦した“SDGs の取り組み”について投稿する。投稿内容は、複数メンバーで認定する。ポイント蓄積で、一定期間の上位者を「学業とは“異なる視点の貢献”」として表彰するほか、上位者の取り組み内容を参加学生間で共有する。こうすることで学生が習慣化して持続できれば、それらも評価・表彰してモチベーションを上げることで、スパイラル的に持続性が増す。
波及性	「SDGs ポイント」は、明星大学の当初は経営学部の学生のみに対して課外活動として行っていたが、他学部（全学部）でも希望する学生は参加できるようになった。中長期的なビジョンとして、1つの大学に閉じず、他大学などでも「SDGs ポイント」を実践できるようにすることで、SDGs のさらなる理解と貢献を広げ、推進していく。そのため、提携大学を適宜募集し、SDGs 関連の学会とも連携していく。これらにより“SDGs の取り組み”を波及させていく。
創造性	「SDGs ポイント」は、自身が挑戦した“SDGs の取り組み”について、LMS 上に1日1回（1週間7回）投稿する。投稿の際、17の目標の一つを選択し、投稿の内容は、自分の行った取り組みを書いてもらう。そうすることで、毎日が創意工夫の連続になる。さらに、単に内容（文字）だけで終わらず、取り組みに対して代表的な写真を投稿する。そうすることで、全く同じ取り組みは一つとしてない。毎日が異なる投稿で評価も大変だが、「SDGs ポイント事務局」の教員と学生の複数メンバーで判断・認定していくことで、その教員と学生も創造性が膨んでいく。
協働性	中長期的なビジョンとして、他大学などでも「SDGs ポイント」を実践できるようにすることで、大学間の横連携を行う協働も視野に入れている。また、学生が“SDGs の取り組み”を投稿しやすいよう、LMS の UI（ユーザーインターフェース）のアプリ化を行っており、その対応を（株）野村総合研究所（未来創発センター）、（株）ベストプランニングが協力している。さらに、大学間の協働を行う際は、LMS から共通アプリへ展開することも想定しており、その際には大学間のみならず、企業間でも協力してもらう。このような大学、企業との協働体制を広げていく。

出所）著者作成

#### 4. まとめ

「SDGs ポイント」の内容と類似例を示し、特徴や違いを明確にした。また、「SDGs ポイント」の成果や評価基準を示し、全体や上位の学生の行動や意識、メディアの情報など、いくつかの視点で分析し、考察した。

「SDGs ポイント」は、参加学生は増えてきたが、常時投稿する習慣化された学生は未だ多くはない。また、評価基準の“協働性”に記載した通り、LMS の UI 部分のスマホアプリ化 (Android 版) を行っているが、他大学でも取り組み、より日本社会に貢献するためには、共通アプリへ展開することが必要になる。そのためには、その開発や管理のリソース (人や金) が必要となり、数百万円規模の予算が新たに必要になる。

これらの課題は山積しているが、この活動は未だ緒に就いたばかりである。現在も試行錯誤を繰り返している段階である。しかし、企業や大学の“SDGs 経営”の本質は、個人の行動や意識という点はいずれにしても代え難い。また、最終的には日本社会やさらに地球環境に貢献するように始めたものであり、さらにこの活動を起点として派生する取り組みを期待したい。

なお、以上の構想、活動により、2021年10月30日には、「情報文化学会大賞」を受賞した[5]。さらには、本取り組みを実施する「SDGs ポイント事務局」が2022年2月15日開催の「脱炭素チャレンジカップ2022」において、ファイナリスト28団体 (優秀賞) に選ばれ[6]、視聴者投票上位2団体に贈られる「マクドナルドオーディエンス賞」を受賞した[7]。

#### 「参考文献」

- [1] 外務省ホームページ『JAPAN SDGs Action Platform』,  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html> 2022年1月31日現在.
- [2] 池上彰(監修)(2020):『世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本』, 学研プラス.
- [3] 明星大学ホームページ『明星大学経営学部の課外活動に「SDGs ポイント」を導入します～ポイントプログラムを活用して自発的なSDGs学習を促進～』,  
<https://www.meisei-u.ac.jp/2021/20210827p1.html> 2021年8月27日発表.
- [4] 安岡寛道(2014):『ポイント会員制サービス入門』, 東洋経済新報社.
- [5] 情報文化学会(2021):『2021年10月30日全国大会・顕彰報告』, 情報文化学会.
- [6] 脱炭素チャレンジカップ『脱炭素チャレンジカップ2022 ファイナリスト情報解禁』,  
<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/> 2021年12月6日発表.
- [7] 脱炭素チャレンジカップ『脱炭素チャレンジカップ2022 受賞結果』, 2022年2月15日発表.